



---

STEREO POWER AMPLIFIER

**M-900u**



このたびは、ラックスマンのステレオ・パワー・アンプリファイヤー M-900u をお求めいただきまして、誠にありがとうございます。

NHK がラジオの本放送を開始した 1925 年、錦水堂ラジオ部として創業されたラックスマンは、80 余年にわたって数多くの製品をオーディオファンや音楽ファンに届けてまいりました。その間、いつの時代にあってもオーディオと音楽を愛する人たちの熱い心は変わりませんでした。

音楽に込められたアーティストの情念を余さず忠実に再現する、そのときの感動の深さと機器への愛着の深さこそがオーディオにとっての最高の価値であると私たちは考えます。

縁あってラックスマン製品をお選びいただきましたことは、オーディオと音楽に対して私たちと同じ情熱と価値観を共有できることであると、心から嬉しく思っております。

本機を正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずこのオーナーズマニュアルをよくお読みください。それによって本機の性能が十分に発揮され、最高のグレードで音楽再生をお楽しみいただくことができます。お読みになった後は保証書、安全上のご注意と共に大切に保管してください。

末永くご愛用いただきますよう、お願い申し上げます。

# 目次

使用上の注意	1
本機の特徴	2
各部の名称と用途	4
接続方法	8
ブロックダイアグラム	13
規格	14
修理に出される前に	15
アフターサービスと品質保証について	16

## アンプの置き場所について

換気や放熱が充分行われる場所に設置してください。特に、直射日光の当たる場所、ストーブのすぐそばなど高温になる場所、湿気の多い場所、ホコリの多い場所などに設置すると、放熱がスムーズでも、故障の原因になることがあります。このような場所への設置は避けてください。

## 通風孔について

天板・底板の通風孔は塞がないでください。なお、ラックなどへ設置する場合は、十分な空間を取り、扉は開放して使用し、他の機器を積み重ねたり、物を載せたりしないでください。故障の原因になります。天板の上部は 30cm 以上の空間を空け、左右は 5cm 以上の空間を空けてください。底板の下部には 4 本の脚の高さの空間を空けてください。

## 併用機器との接続時の注意

本機にコントロールアンプなどの入力機器を接続するときには、本機をはじめ、すべての併用機器の電源スイッチを必ず切ってください。スピーカーを破損するほどのノイズが発生したり、場合によっては故障の原因になることがあります。本機の各入力端子に差し込むピンプラグは、しっかりと差し込んでください。アース側が浮いているとハムなどのノイズが発生し、S/N 比悪化の原因になります。

## スピーカー接続時のご注意

スピーカーシステムを接続するときには、本機のスピーカー端子やスピーカーの入力端子のところで、⊕⊖ 間がショートすることのないよう十分に注意してください。ショートしたままアンプに大信号が加わると出力回路に大電流が流れ、場合によっては故障の原因になります。

## 電源オン後すぐには音が出ません

本機には出力回路を切り離すためのタイム・ミューティング回路が組み込まれているため、電源オン後すぐには音が出ません。このタイム・ミューティング回路が解除されるまでに音量が上がっていると、急に大きな音が出てくることになります。コントロールアンプなどの入力機器のボリューム・コントロールは必ず小さく絞っておき、スピーカーから音が出はじめてから適度な音量にセットしてください。

## 保護回路について

本機にはアンプやスピーカー保護のため、過電流検出、異常高温検出、DC ドリフト検出による保護回路を設けています。この保護回路が動作した場合、スピーカー端子への出力を中絶するとともに、スタンバイ・インジケータが点灯し、本機はスタンバイ状態になります。メイン電源スイッチをオフにしてから電源プラグをコンセントから抜き、一定時間経過後に再度電源プラグをつなぎ電源を投入しても保護回路がたびたび動作する場合には、弊社サービスセンターにご相談ください。

## 修理・調整について

修理・調整などが必要なときは、お買い上げの販売店、もしくはお近くの弊社サービスセンターへご依頼ください。

## お手入れについて

お手入れは、市販のクリーニングクロスなどの柔らかい布で拭いてください。汚れがひどいときは、中性洗剤を少量含ませた柔らかい布で汚れを落とし、乾いた布で拭き取ってください。なお、ベンジン、シンナーなどの溶剤は、外観を損ねるため使用しないでください。

## 安全上のご注意



本機は重いので開梱や持ち運び、設置は、必ず 2 人以上で行ってください。1 人で行うとけがの原因となることがあります。

# 本機の特徴

## 4×2 アウトプット構成

B-1000fに採用された4×4アウトプット思想を継承し、3段ダーリントンで構成された4パラレル・プッシュプル増幅回路を、各チャンネルあたり2モジュール使用する4パラレル×2モジュール構成を採用。  
150W+150W (8Ω)、300W+300W (4Ω)の定格出力。

## ODNF — Only Distortion Negative Feedback —

増幅時に発生した歪成分だけをフィードバックすることで主アンプを無帰還に近いピュアな音質に保ち、高速の初期スルーレートと超広帯域を獲得した増幅帰還回路。最新バージョンの4.0では、アンプ回路の初段を4パラレル化、2段目をダーリントン接続として、伝送路の低インピーダンス化と高S/N比を実現。  
さらに誤差検出回路の入力段を3パラレル化し歪みとノイズを改善。

## BTL 接続モード

本機を2台使用したハイクオリティ／ハイパワーなモノラルアンプ構成を実現するBTL接続モード。

## 2系統の入力セレクター

銅合金製RCA端子のアンバランス入力と、ノイトリック社製XLR端子を採用した、高品位なバランス信号伝送に対応したバランス入力との切替えが可能。

## バランス入力位相切替え

海外製入力機器などの接続時に便利なバランス入力位相切替えスイッチ搭載。

## セレクター・リレー

当社アンプの要所に採用された、セパレーションとクロストーク性能を高める高音質セレクター・リレー採用。

## ハイイナーシャ電源

大容量の平角銅巻線を採用したEIコアタイプ電源トランスとカスタム仕様の20,000μF×4本のブロックコンデンサーを組み合わせた、ハイイナーシャ（高慣性）電源回路。

#### 4 パラレル・スピーカーリレー

低抵抗値のスピーカーリレーを各チャンネルあたり4パラレル構成で搭載し、スピーカー出力ラインのインピーダンスを低減。

#### ショットキーバリア・ダイオード

電源整流回路にはスイッチング・ノイズが少なく直流電圧への変換効率の高い日本インター製ショットキーバリア・ダイオードを採用。

#### オリジナル OFC ワイヤー

内部配線は各芯スパイラルラップ・シールドと芯線の非メッキ処理で自然な信号伝送を実現した、オリジナルのOFCワイヤーを採用。

#### ピールコート PCB

音声回路の基板には 100  $\mu$ m 厚銅箔の上にレジストを塗布せず金メッキ処理、レジストの誘電効果を排除。

#### 高品位アナログメーター

シャワーライト照明の大型アナログメーターを装備、照明オフ/メーターオフ設定可能。

#### ループレス・シャーシ

シャーシ電流によるアース・インピーダンスの上昇をシャットアウトする、独立コンストラクションのループレス・シャーシ構造。

#### 大型スピーカー端子

極太のスピーカーケーブルも装着しやすく、Yラゲやバナナ端子に対応した、LR 同一特性レイアウトのスピーカー端子。

#### AC インレット

低温アニール処理したハイグレードな金メッキ AC インレット。

#### 電源ケーブル (JPA-15000)

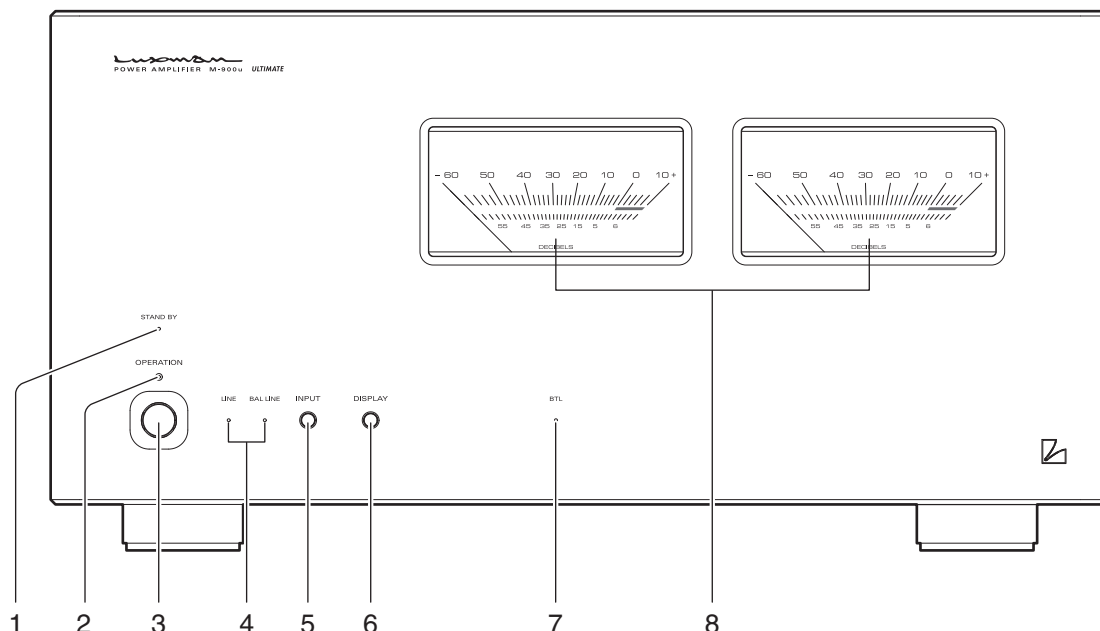
聴感上の周波数のうねりを排除するノンツイスト構造、線材は 3.5mm<sup>2</sup> 無酸素銅 (OFC) を使用した極太線を採用。

#### 鋳鉄製インシュレーター

不要な外部振動を排除し、本体の重量を強固に支えるグラデーション鋳鉄製インシュレーターを装着。

# 各部の名称と用途

## 本体正面



### 1. スタンバイ・インジケータ (STAND BY)

本機がスタンバイ状態であることを示すインジケータです。

リアパネルにあるメイン電源スイッチをオンにしてオペレーション・スイッチがオフのとき、点灯しています。オペレーション・スイッチがオンのとき、およびメイン電源スイッチがオフのときは消灯します。

### 2. オペレーション・インジケータ (OPERATION)

オペレーション・スイッチをオンにするとタイム・ミュート中は点滅 (約 15 秒) し、その後動作状態になると点灯します。

### 3. オペレーション・スイッチ (OPERATION)

本機をスタンバイ状態から動作状態にするためのスイッチです。

リアパネルにあるメイン電源スイッチをオンにしてスタンバイ状態にしてからこのスイッチをオンにすると動作状態になります。

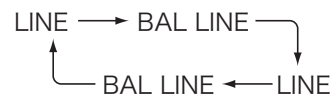
配線、接続時には必ずこのスイッチをオフにしてください。

### 4. インプット・インジケータ (LINE / BAL LINE)

インプット・スイッチで選択されている入力を表示します。

### 5. インプット・スイッチ (INPUT)

リアパネルにあるアンバランス入力端子 LINE とバランス入力端子 BAL LINE を選択するためのスイッチです。押す度に LINE → BAL LINE → LINE → BAL LINE → LINE……と変化します。



工場出荷時は、LINE に設定されています。

このスイッチを切替えると入出力ミュート回路が作動し、その間は音が出ません。



## 6. ディスプレイ・スイッチ (DISPLAY)

パワーメーターの照明、表示を選択するスイッチです。リアパネルにある BTL 切替スイッチの設定 (STEREO/BTL (MONO)) により、動作が異なります。

STEREO のとき

- ・押す度に 照明 / パワーメーター共オン → 照明オフ (パワーメーターのみ) → 照明 / パワーメーター共オフ → 照明 / パワーメーター共オン → …… と変化します。

BTL (MONO) のとき

- ・パワーメーターは左側のみ動作します。
- ・押す度に 左右照明 / パワーメーター (左) オン → 左照明のみ / パワーメーター (左) オン → 照明オフ (パワーメーターのみ) → 照明 / パワーメーター共オフ → 左右照明 / パワーメーター (左) オン → …… と変化します。

工場出荷時は、以下のように設定されています。

STEREO 時	パワーメーター照明オン パワーメーター表示オン
BTL (MONO) 時	パワーメーター照明左右オン パワーメーター表示オン (左)

なお、ディスプレイ・スイッチの設定は STEREO、BTL (MONO) で各々メモリーされます。

## 7. BTL インジケーター (BTL)

リアパネルにある BTL 切替スイッチで BTL (MONO) が選択されたときに点灯し、本機が BTL 接続のモノラルアンプになったことを示します。BTL 切替スイッチを STEREO 側にすると消灯し、本機がノーマル接続のステレオアンプになったことを示します。

工場出荷時は、消灯 (STEREO 側) に設定されています。

## 8. パワーメーター

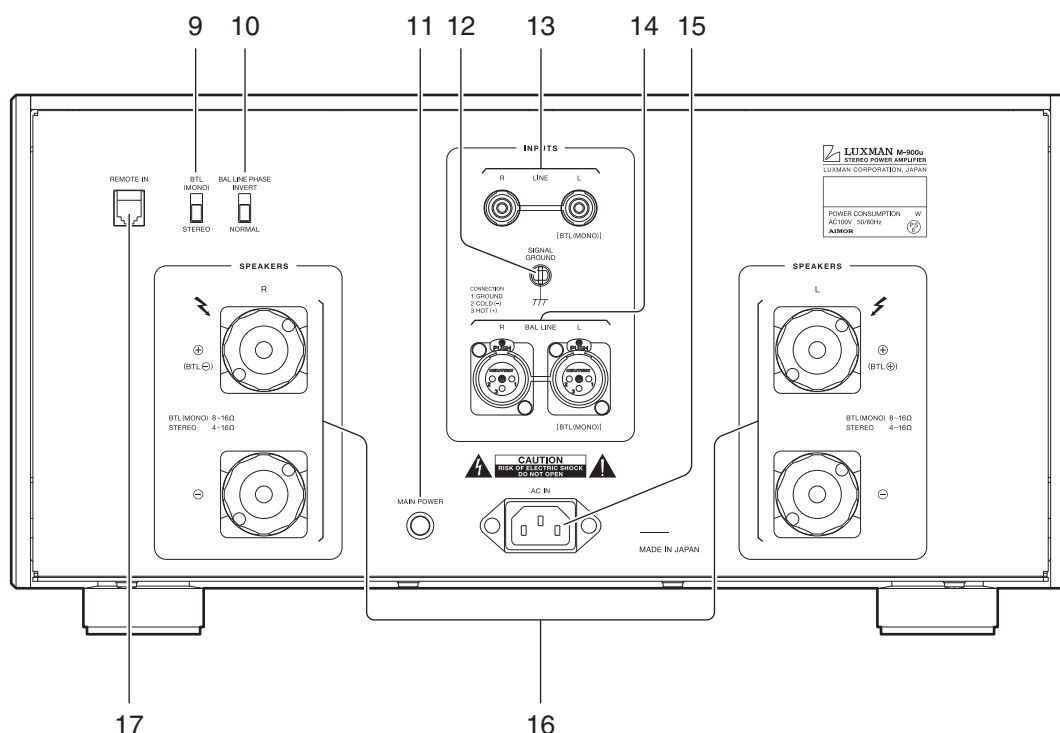
スピーカーへの出力レベルを表示する、照明付きのパワーメーターです。

ディスプレイ・スイッチの設定、及びリアパネルにある BTL 切替スイッチの設定 (STEREO/BTL (MONO)) により、照明 / パワーメーター動作が異なります。

- ・パワーメーター動作中は出力レベル  $-\infty$  から +10dB までデシベルで表示します。
- ・STEREO 時は、左側が L チャンネルのレベルを表示し、右側が R チャンネルのレベルを表示します。
- ・BTL (MONO) 時は、左側のみでレベルを表示します。

# 各部の名称と用途

## 本体後面



### 9. ステレオ／BTL 切替スイッチ (STEREO / BTL (MONO))

STEREO を選択するとステレオ・パワーアンプとして動作します。

BTL (MONO) を選択すると BTL 接続のモノラル・パワーアンプとして動作します。

工場出荷時は、STEREO に設定されています。

### 10. フェーズ・インバーター・スイッチ (BAL LINE PHASE)

バランス入力端子使用時の位相切替スイッチです。入力機器の位相に合わせてください。

- NORMAL ポジション
- ① GROUND
  - ② COLD (-)
  - ③ HOT (+)
- INVERT ポジション
- ① GROUND
  - ② HOT (+)
  - ③ COLD (-)

### 11. メイン電源スイッチ (MAIN POWER)

本機をスタンバイ状態にするためのメイン電源スイッチです。

このスイッチをオンにすると、フロントパネルにあるスタンバイ・インジケータが黄色に点灯し、本機がスタンバイ状態になったことを示します。

このスイッチをオフにすると、フロントパネルにあるスタンバイ・インジケータが消灯し、メイン電源オフ状態になったことを示します。

### 12. シグナル・グラウンド (アース端子) (SIGNAL GROUND)

本機に接続する機器のアース用端子です。この端子は他の機器を接続した場合の雑音の低減をはかるためのものです。安全のためのアースではありません。

### 13. アンバランス入力端子 (INPUTS LINE)

ラインレベルのアンバランス音声信号を入力するコアキシャル入力端子です。コントロールアンプなどの入力機器のアンバランス出力をピンプラグ・ケーブルを使用し接続してください。

LINE に入力された音声信号は、フロントパネルにあるインプット・スイッチで選択され出力されます。

## 14. バランス入力端子 (INPUTS BAL LINE)

ラインレベルのバランス音声信号を入力するキャノンコネクター入力端子です。コントロールアンプなどの入力機器のバランス出力をバランス・ケーブルを使用し接続してください。

BAL LINE に入力された音声信号は、フロントパネルにあるインプット・スイッチで選択され出力されます。正しく音楽再生を楽しむ為に、コントロールアンプなど入力機器のバランス出力の位相に合わせて本機のフェーズ・インバーター・スイッチを切替えてください。

BTL (MONO) を選択したときはL側からの信号のみ有効ですので、入力機器の左チャンネル (L側) 出力端子を左チャンネル用 M-900u のL側入力端子に、入力機器の右チャンネル (R側) 出力端子をもう1台の右チャンネル用 M-900u のL側入力端子に、それぞれ確実に接続してください。

R側入力端子からの信号は出力されません。

## 15. AC インレット (AC IN)

付属の電源ケーブルを接続します。電源は AC100V 家庭用コンセントをご使用ください。

## 16. スピーカー端子 (SPEAKERS)

本機のスピーカー端子のL側に左スピーカーを、R側に右スピーカーを、極性を合わせて接続します。

このとき、スピーカーシステムの⊕側端子を本機のスピーカー端子の⊕側 (赤) 端子に、スピーカーシステムの⊖側端子を本機のスピーカー端子の⊖側 (黒) 端子に、確実に接続してください。

なお、本機に接続されるスピーカーシステムは、4Ω ~ 16Ω のインピーダンスのものがご使用になれます。

BTL (MONO) では、本機はモノラル・パワーアンプになりますので、左右どちらかのスピーカーシステムしか接続できません。ステレオ再生をする場合はもう1台の M-900u が必要になります。

BTL (MONO) での接続は、スピーカーシステムの⊕側端子を本機のL側スピーカー端子の⊕側 (赤) (BTL ⊕) 端子に、スピーカーシステムの⊖側端子を本機のR側スピーカー端子の⊕側 (赤) (BTL ⊖) 端子に、確実に接続してください。

なお、本機に接続されるスピーカーシステムは、BTLモードの場合、8Ω ~ 16Ω のインピーダンスのものがご使用になれます。

## 17. リモート入力端子 (REMOTE IN)

このリモート入力端子に専用リモート出力端子のあるコントロールアンプ (C-900u など) と専用リモート・ケーブルで接続してください。

メイン電源スイッチをオンにして本機をスタンバイ状態にしておく、コントロールアンプのオペレーション・スイッチに連動して本機を動作状態にしたり、スタンバイ状態にすることができます。

メイン電源スイッチがオフですと連動できません。

### メモリー・リセット

全ての設定を出荷時の設定に戻すには、以下の操作を行います。

- (1) 電源をスタンバイ状態にします。
  - (2) 以下はディスプレイ・スイッチを押し続けながら操作します。
  - (3) オペレーション・スイッチをオンにします。
  - (4) 5秒後にインプット・インジケーター、LINE と BAL LINE が両方点灯します。
  - (5) インプット・スイッチを1回押します。
  - (6) 電源がスタンバイ状態になります。
  - (7) ディスプレイ・スイッチを放します。
- これで操作完了です。

#### 工場出荷時の設定

項目	設定値
インプット	LINE
ディスプレイ	
STEREO 時	パワーメーター照明オン パワーメーター表示オン
BTL (MONO) 時	パワーメーター照明左右オン パワーメーター表示オン (左)

# 接続方法

## 接続する前に

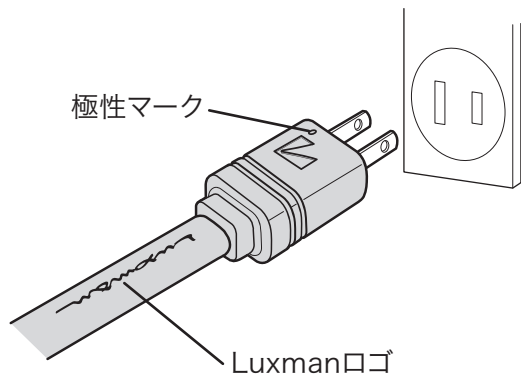
他の機器を接続する前に、付属の電源ケーブルのジャック部（穴が3つある方）を本機の AC インレットに接続してください。

接続するときは、思わぬノイズの発生による事故を防止するため、本機のメイン電源スイッチと併用機器の電源をすべてオフにしてください。

## 電源の接続

付属の電源ケーブルを使用し、AC プラグをリスニングルームなどにある AC100V のコンセントに差し込んでください。ケーブル本体に印字された Luxman ロゴが見えるように（極性マークがコンセントに向かって左側にあるように）AC プラグを差し込むと、電源極性が正しく設定されます。

一般的に AC コンセントは、向かって左側の若干長い穴が接地用端子（W 表記）になっています。



## 入力端子とコントロールアンプなどの入力機器との接続

コントロールアンプなどの入力機器の出力端子と本機の入力端子の間を、ピンプラグ・ケーブルあるいはバランス・ケーブルで接続します。

このとき、左右のチャンネルを逆に接続しないように充分注意し接続してください。左右のチャンネルを逆に接続すると音像定位が悪くなるなど正常なステレオ再生ができなくなります。

また、ピンプラグ・ケーブルをご使用の場合は、ピンプラグ・ケーブルのアース側が浮いているとハムなどの雑音が発生し、S/N 比が悪化する原因となります。接続プラグは確実に押し込んで接続してください。

## リモート入力端子とコントロールアンプとの接続

C-900u などラックスマンのコントロールアンプのリモート出力端子と本機のリモート入力端子を本機に付属している専用リモート・ケーブルで接続します。

これにより、コントロールアンプのオペレーション・スイッチに連動して本機を動作状態にすることができます。専用リモート・ケーブルは、本機とラックスマンのコントロールアンプの接続以外に使用しないでください。本機のリモート入力に 12V を超えるような大きな電圧を供給できる端子に接続すると故障の原因となります。

## スピーカーの接続

### (ステレオ接続)

本機の SPEAKERS L 端子に左チャンネル用のスピーカーを、SPEAKERS R 端子に右チャンネル用のスピーカーを接続します。

スピーカーシステムの ⊕ 端子を本機のスピーカー端子の赤 (⊕ 側) 端子に、スピーカーシステムの ⊖ 端子を本機のスピーカー端子の黒 (⊖ 側) 端子に、確実に接続してください。

このとき、左右スピーカーシステムの (どちらか一方の) ⊕ 端子、⊖ 端子を逆に接続すると、左右のスピーカーシステムから再生される信号の位相が逆になり、低音が減少したり、音の定位が悪くなるなど、正常なステレオ再生ができなくなりますので、十分に注意してください。

### (BTL 接続)

BTL (MONO) を選択したとき、本機はモノラル・パワーアンプになりますので、ステレオ再生を行うにはもう一台の M-900u が必要になります。

左チャンネル用 M-900u のスピーカー端子に左チャンネル用のスピーカーを、右チャンネル用 M-900u のスピーカー端子に右チャンネル用のスピーカーを接続します。スピーカーシステムの ⊕ 端子を本機の SPEAKERS L 端子の赤 (BTL⊕ 側) 端子に、スピーカーシステムの ⊖ 端子を本機の SPEAKERS R 端子の赤 (BTL⊖ 側) 端子に、それぞれ確実に接続してください。

---

正常なステレオ再生を行うため、左右チャンネルおよび ⊕ ⊖ 端子の接続が逆にならないよう、充分注意してください。

---

スピーカー切替えスイッチボックスのなかには、スピーカー端子の ⊖ 側が共通グラウンドに接続されているものがあります。本機が BTL (MONO) の場合、本機の反転出力側がスイッチボックスの共通グラウンドにショートされ過大電流が流れることとなります。保護回路が作動し、故障の原因になりますので、このようなスイッチボックスは使用しないでください。

BTL (MONO) の場合は、直接スピーカーシステムと接続するか、スピーカー端子の ⊖ 側も独立して切替わるスイッチボックスを使用してください。

---

---

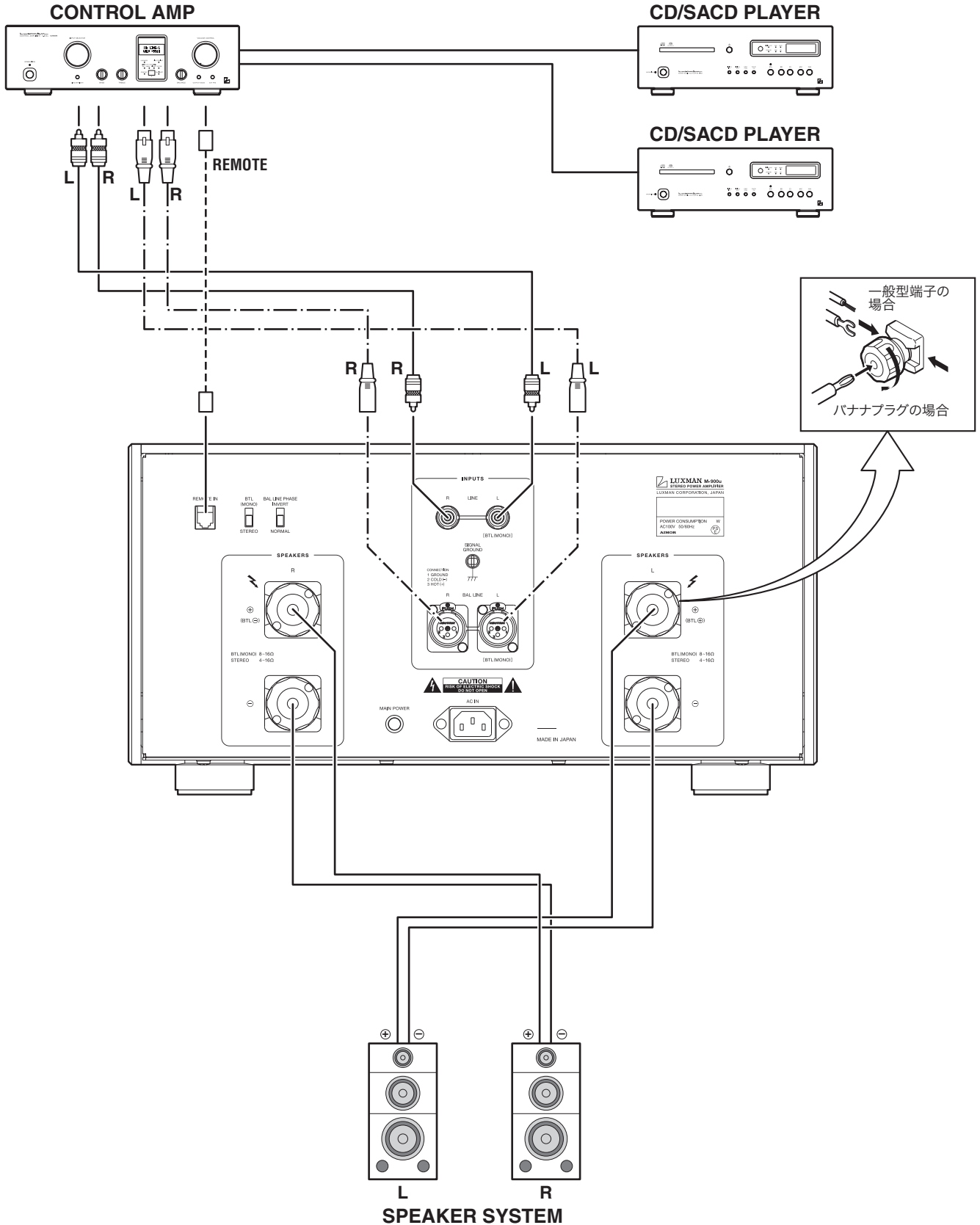
過大入力からアンプとスピーカーを保護するために、本機と入力機器を接続するとき、本機とスピーカーシステムを接続するときは、本機のメイン電源スイッチをオフにするか、本機をスタンバイ状態にしてください。

接続完了後に正しく接続されていることを確認してから本機を動作状態にしてください。

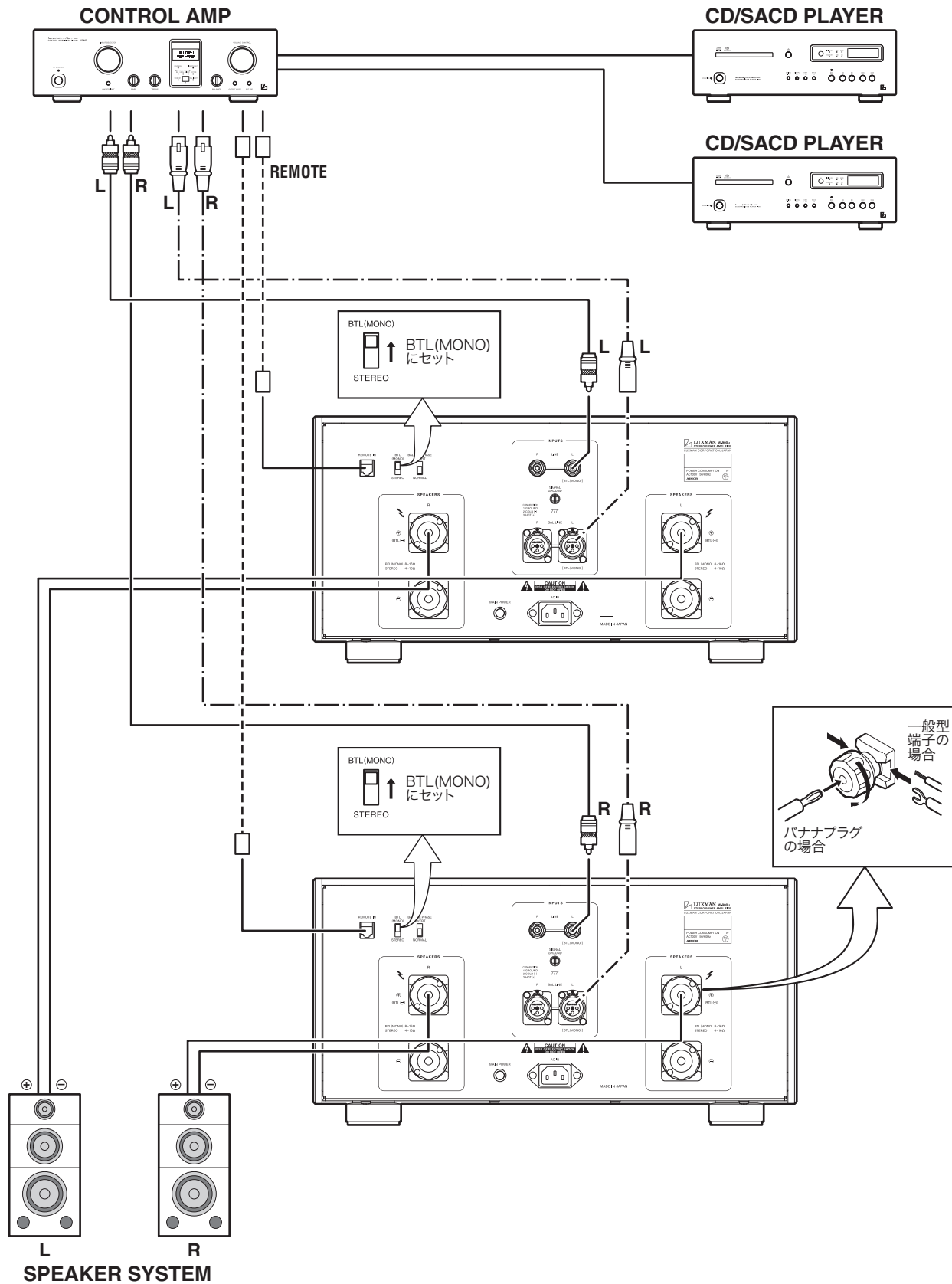
---

# 接続方法

## 通常ステレオ再生

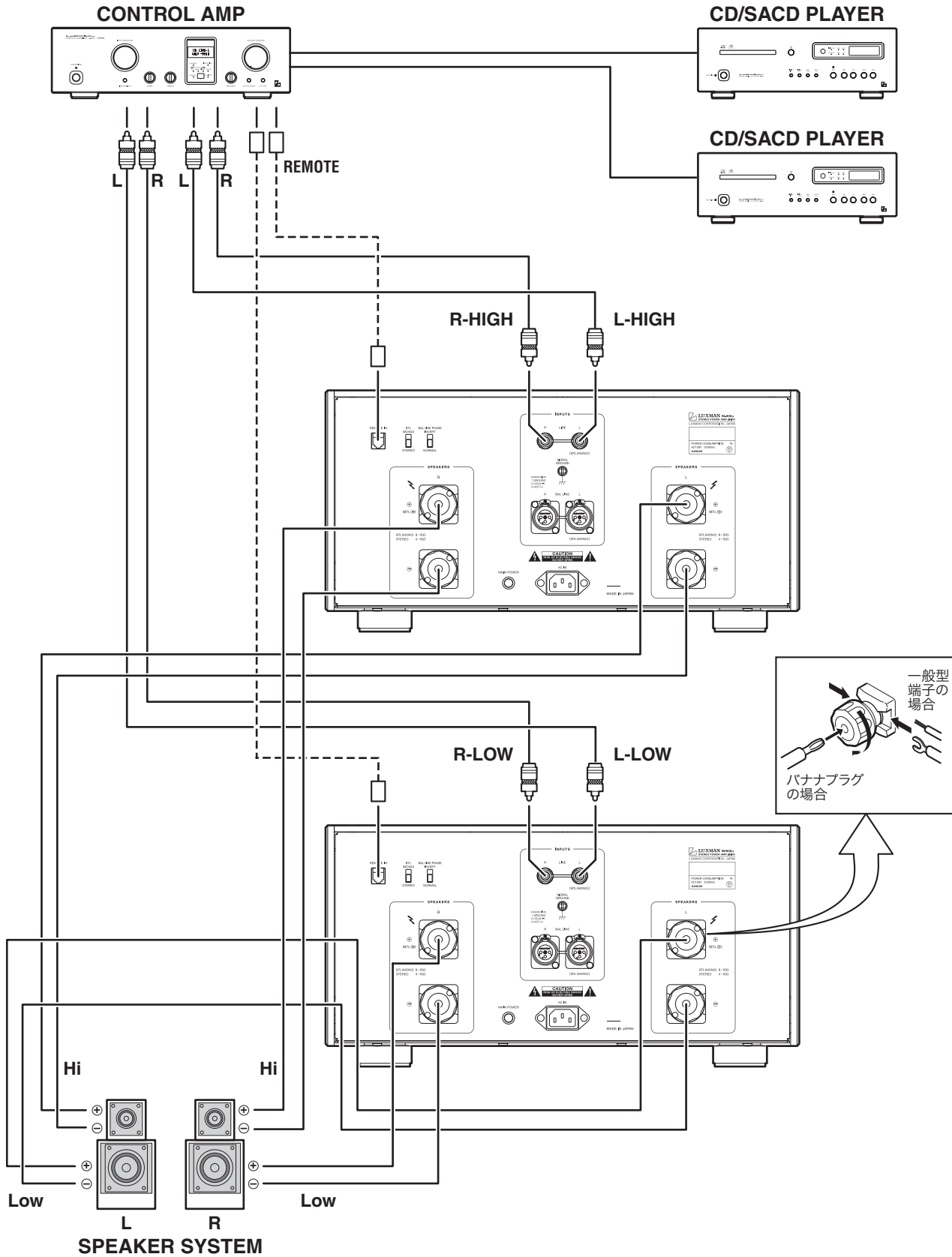


BTL ステレオ再生



# 接続方法

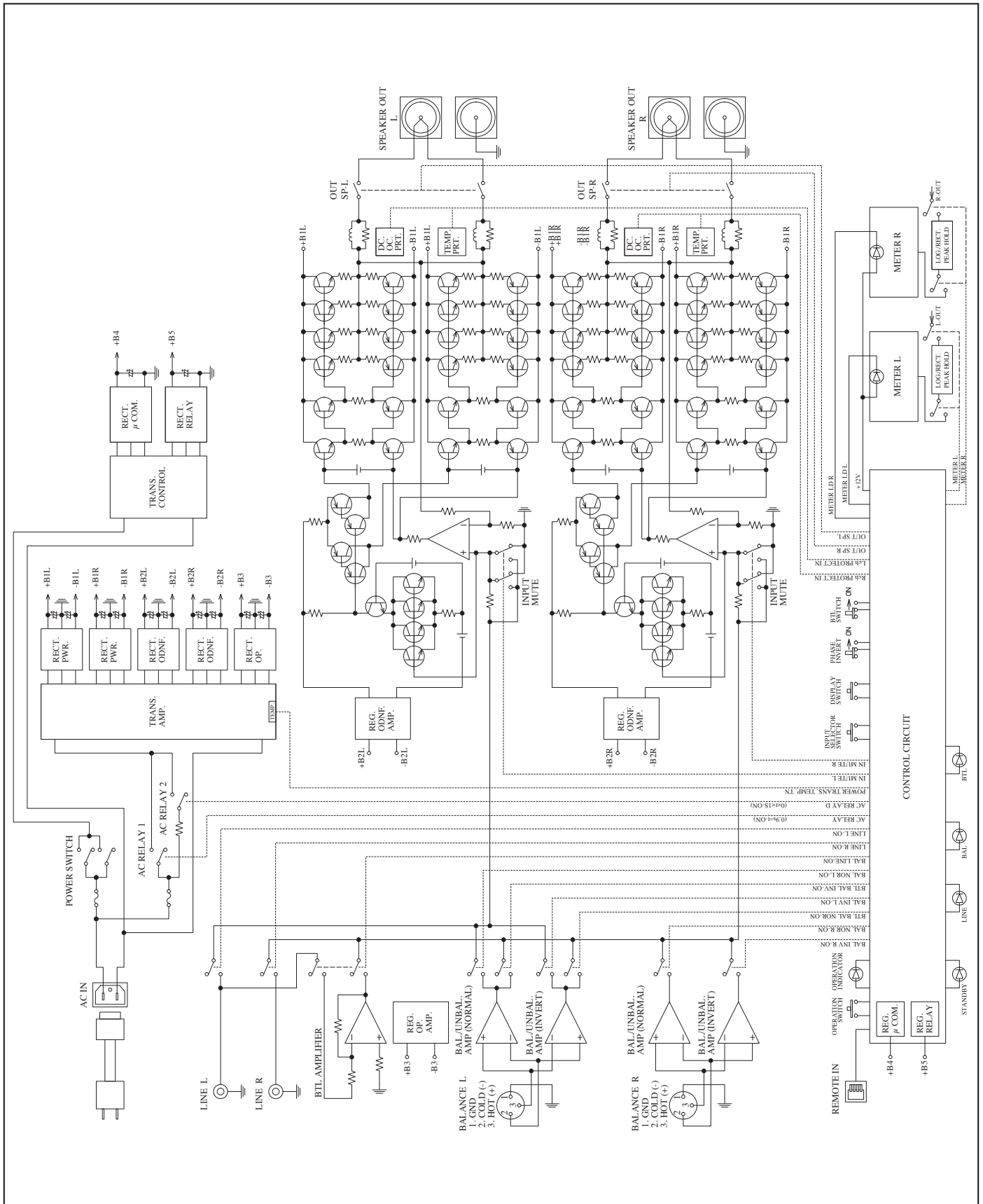
## バイアンプ・ステレオ再生





# ブロックダイアグラム

**STEREO POWER AMPLIFIER M-900u**



# 規格

連続定格出力 (ステレオ)	150W + 150W (8Ω) 300W + 300W (4Ω)
連続定格出力 (BTL)	600W (8Ω)
瞬時最大出力 (ステレオ)	1200W + 1200W (1Ω)
瞬時最大出力 (BTL)	2400W (2Ω)
全高調波歪率	1.24V / 150W 負荷 8Ω GAIN 29.05dB
入力インピーダンス	LINE 51kΩ BAL LINE 34kΩ
全高調波歪率	0.008% 以下 / 1kHz・150W 負荷 8Ω 0.1% 以下 / 20Hz ~ 20kHz
周波数特性	+ 0, - 0.1dB / 20Hz ~ 20kHz + 0, - 3.0dB / 1Hz ~ 130kHz
S / N 比	117dB (IHF-A 補正, 入力ショート)
ダンピング・ファクター	710
付属装置	<ul style="list-style-type: none"><li>• メイン電源スイッチ</li><li>• オペレーション・スイッチ</li><li>• インプット・スイッチ</li><li>• BTL 切替スイッチ</li><li>• フェーズ・インバーター・スイッチ</li><li>• ディスプレイ・スイッチ</li><li>• パワーメーター</li><li>• バランス入力端子 1 系統</li><li>• アンバランス入力端子 1 系統</li><li>• シグナル・グラウンド端子</li><li>• スピーカー端子 1 系統</li><li>• AC インレット</li><li>• リモート入力端子</li></ul>
付属品	<ul style="list-style-type: none"><li>• 電源ケーブル JPA-15000</li><li>• 専用リモート・ケーブル</li><li>• オーナーズマニュアル</li><li>• 保証登録書</li><li>• 安全上のご注意</li></ul>
消費電力	520W (電気用品安全法による規定) 280W (無信号時) 1.0W (スタンバイ時)
電源電圧	AC 100V (50/60Hz)
最大外形寸法	440 (W) × 224 (H) × 485 (D) mm
重量	48.0kg

※ 規格および外観は予告なく変更することがあります。

ご使用中に、何らかの原因で故障と間違えることがあります。修理に出される前に下記の表、および併用機器の取扱説明書をご覧のうえ、ひと通り確認してください。故障の原因がわからない場合は、お買い上げの販売店、もしくは弊社サービスセンターへお問い合わせください。なお、修理の依頼をお受けした場合は、故障でなくとも点検代、出張費などを戴くことがあります。

症 状	原 因	対 策
オペレーション・スイッチを押しても電源が入らない。	・電源プラグがコンセントから外れているか、確実に差し込まれていない。	・電源プラグをコンセントへ確実に差し込む。
	・電源プラグが AC インレットから外れているか、確実に差し込まれていない。	・電源プラグを AC インレットへ確実に差し込む。
	・メイン電源スイッチがオフになっている。	・メイン電源スイッチをオンにする。
音が出ない。	・入力機器のボリューム・コントロールが最小音量の位置になっている。	・入力機器のボリューム・コントロールを右に回して音量を調節する。
	・インプット・スイッチが再生する入力信号の位置にセットされていない。	・インプット・スイッチを再生する入力信号の位置にセットする。
	・接続ケーブルの接続が不完全。	・接続ケーブルを確実に接続する。
	・入力機器の出力レベルが最小になっている。	・出力レベルを調節する。
片側だけ音が出ない。	・接続ケーブルの片側だけが接続されていない。	・接続ケーブルを確実に接続する。
音は出るが、音量が小さい。 片チャンネルだけ音量が小さい。 音像定位がおかしい。 低音が出ない。	・BTL 接続をしているが、ステレオ / BTL 切替スイッチが STEREO になっている。	・BTL 接続をした場合は、ステレオ / BTL 切替スイッチを BTL (MONO) にする。
	・ステレオ接続をしているが、ステレオ / BTL 切替スイッチが BTL (MONO) になっている。	・ステレオ接続をした場合は、ステレオ / BTL 切替スイッチを STEREO にする。
	・コントロールアンプのバランス・コントロールが、片側によっている。	・コントロールアンプのバランス・コントロールをお好みに調節する。
	・LチャンネルとRチャンネルの接続が逆になっている。	・LチャンネルとRチャンネルを正しく接続する。
	・片側のスピーカーシステムの⊕⊖が逆に接続されている。	・左右のスピーカーシステムとも⊕⊖の接続を正しくする。
ハム音（ブーン、またはジーというノイズ）が出る。	・ピンケーブルのアース側が端子に接触していない。	・ピンケーブルのアース側が接触するように確実に接続する。
表示窓が点灯しない。	・ディスプレイ設定が消灯になっている。	・ディスプレイ・スイッチで設定をオンにする。

# アフターサービスと品質保証について

ラックスマンのオーディオ製品には、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで、数多くの厳しいチェックを施し、万全の品質管理を期していますが、万一本機が故障したときは弊社サービスセンターまたはお求めの専門店までご連絡ください。状況に応じた出張修理または持ち込み修理をさせていただきます。なお、遠隔地の場合は修理品のご送付をお願いすることもあります。ご容赦ください。

M-900uの保証期間は購入日より起算して5年間です。この期間中に発生した自然故障は一切弊社の責任において無料修理させていただきます。保証登録書は、本機のパッキングケース内に入っていますので、お買い上げの販売店で、販売年月日、店名の記入捺印を受けた上、弊社に送付してください。折り返し、保証書を弊社よりお送りいたします。保証期間内の修理お申しつけの節は必ず弊社発行の保証書を添えてください。保証期間外、保証書がない場合の修理については実費でお引き受けします。

修理のご依頼、お問い合わせにつきましては、別紙のサービス情報をご覧ください。